

北方圏交流史私考（1）

本堂 藤昭

要旨

北海道活性化策としての北方圏構想は、当時の北海道開発庁次官・堂垣内尚弘氏により1960年代に唱道され、同氏が1971年北海道知事になってから、この構想に基づく交流が盛んになった。実施母体としての組織も、北方圏調査会から北方圏センターに発展的に解消され、現在に至っている。一方、札幌市もこれに引き続いて「北方都市市長会」と「ウィンター・シティーズ・ショーケース（国際見本市）」を立ち上げ、すでに10回目の開催を経ている。しかし近年制度疲労というべきか中弛みというべきか当初の活気がみられない。そこで、この報告と提案を通して、これまでを振り返りつつ今後のありようを考えてみようとするものである。